

改訂にあたって

新潟県歴史資料保存活用連絡協議会

会長 羽 入 利 昭

『古文書保存・整理の手引き』は、4年半の編集作業を経て平成20年に刊行されました。刊行後、新潟県内の研修会でテキストとして活用されてまいりました。その一方で会員の枠を越えて県外の歴史資料関係機関から多くの問い合わせがあり、その結果、平成22年度には増刷を行い、要望にお応えしました。実務に携わる担当職員の声を活かして、「誰でもできる整理・保存の方法を提示する」という編集方針が多くの皆さまに評価された表れと考えております。

このように『古文書保存・整理の手引き』を多くの皆さまに利用していただく一方で、古文書を取り巻く環境にも変化がありました。その一つが東日本大震災です。旧版にも中越地震と中越沖地震の経験を反映させていましたが、東日本大震災の経験は、更なる災害対応の経験をもたらすものでした。また、中越地震や中越沖地震で被災した古文書の搬出と保管は、市民ボランティアによる古文書の整理や活用という新たな動きを生み出し、発展させることとなりました。

在庫がわずかになってきた中、多くの評価を得た『古文書保存・整理の手引き』だからこそ、このような変化を踏まえて最新の成果を反映させたものに更新することが良いのではないかと、との発案が理事会でありました。これを受けて平成25年度にワーキングチームを立ち上げて改訂の是非を検討し、平成26年度から検索性やボランティアとの関わり方、災害対応記述の充実などを行う方向でワーキングチームで編集作業を重ねてきました。そして4年の月日を費やし、改めて『古文書保存・整理の手引き』を皆さまにお届けできることになりました。ワーキングチームのメンバーは、古文書の整理・保存の実務担当者であり、旧版同様に現場の経験を盛りこんでいます。その結果、改訂のねらいを十二分に達成するものができたと自負しております。

過疎化の進行や人口減少社会への移行によるマンパワー減退によって現地で古文書を継承することの困難さが増す一方で、地域のリアルな記憶としての古文書を地域振興や災害対応に活かす動きの高まりがあります。これらに対応した行政機関の役割も求められていくでしょう。このような中で、新潟県内の会員各位をはじめ、県外の関係機関、関係者にこの改訂版『古文書保存・整理の手引き』が、旧版以上に活用されることを願っています。

平成29年 3月

